

(福山女大)伊東 祥 ○松谷康子 鈴木順子

長久手町では、成人病予防事業の一環として毎年1回行う住民検診から高血圧者の多い地域を選んで成人病予防モデル地区として栄養調査および循環器多項目検診を行い、食事その他の指導も行っている。私達は同町からの協力依頼に応じて昭和55年からモデル地区の一部住民の栄養調査を行っているので、その結果について発表する。

調査方法：対象は岩七北地区の42世帯及び前西地区23世帯；総数261人。時期は昭和55年と56年7月初旬の3日間。国民栄養調査方式に準じ栄養調査を行った。全世帯に秤量計、特に調味料中のNaCl量はポイントの一つになるので塩・味噌・醤油等は全戸に配分し塩分量を測定した。健康調査(身体計測・血圧・血液・尿などの検査)及び医師の診断結果を参考にした。

結果：1)昭和55年度行った岩七北地区についてのみ述べると、調査対象中の高血圧者は男女共に45才以上に多く、特に女子に多かった。この地区では高血圧発症頻度が比較的高く、死因別調査では脳血管疾患による死亡率が高いことが統計的に認められている。2)食事状況は地区平均の栄養摂取量(42世帯,192人,三訂補成分表による)は、Ca以外は所要量を充ち、ほぼ良好な摂取パターンを示したが、個々の世帯ではかなりの差がある。また旧成分表による算出ではCa, VA, VB₂が不足する結果となった。3)高血圧者と正常血圧者を比較すると、すべての栄養素摂取量平均において前者は後者より低値を示した。食品群別平均では高血圧群が穀類, 肉類, 芋類, 砂糖類, 卵類以外の食品において所要量を下回っていた。食塩摂取量平均は高血圧群が対照群より明らかに多いことが認められた。昭和56年度の前西地区(高血圧多発)についての調査結果は目下検討中なので、それを加えて報告する。